

愛媛県立新居浜病院 の新病院整備について

1 新居浜病院の目指すべき病院像

救命救急センター、地域周産期母子医療センターを併設し、東予地域の三次救急機能や東予東部の周産期医療、小児救急医療を担うとともに、脳神経疾患、心臓疾患等の急性期医療や災害医療等を県民に提供する新居浜・西条圏域の中核病院

2 新病院の建替概要⇒平成33年7月のオープンを目指す

項目		現病院	新病院	
建物概要	延床面積	20,513㎡ (本館、別館、救命救急センター)	19,580㎡+管理棟5,603㎡ (新診療棟) (旧救命救急センター)	
	階数	本館：地下1階、地上5階 別館：地上2階 救命救急センター：地上3階	新診療棟：地上5階、塔屋2階 管理棟(旧救命救急センター)：地上3階	
	屋上ヘリポート	なし	あり(救命救急センターと直結)	
診療科数		22診療科	22診療科(将来的に増科を検討)	
許可病床数		313床	240床(73床減)	
特定加算病棟	救命救急センター	I C U	6床	8床(2床増)
		H C U	14床	12床(2床減)
	地域周産期母子医療センター	N I C U	6床	6床
		G C U	4床	6床(2床増)
感染症病床		2床	2床	
結核病床		21床	3床	
主な機能	手術室	5室	5室 (うち1室、将来対応のハイブリッド手術室)	
	ハイブリッド初療室(検討中)	なし	1室	

事業費(施設整備費)：総額99.2億円(税込)

3 新病院において担うべき医療機能や再整備の考え方

(1) 県として政策的に取り組むべき医療への対応

後期高齢者の増加や安心して子供を産み育てられる環境づくりを推進するため、機能強化を図る。

- ・ **東予救命救急センター**：迅速かつ的確な救急処置、I C U・H C U及び緊急手術機能等、**三次救急患者の受け入れ機能の拡充**
- ・ **地域周産期母子医療センター**：産科、小児科の連携強化、N I C U・G C U機能の拡充
- ・ **小児救急医療センター(開設)**：救急患者の**受入機能の拡充**
- ・ **災害拠点病院**：傷病者の**受入機能の拡充**

(2) 医療ニーズへの対応

二次救急医療や地域で不足する急性期医療を中心に総合的に医療を提供できる機能の強化を図る。

(3) 地域連携の推進

東予東部地域の高度な医療機能を持つ病院との役割分担、かかりつけ医等との地域連携を推進し、地域完結型医療の実現に努める。

(4) 研修・教育機能の強化

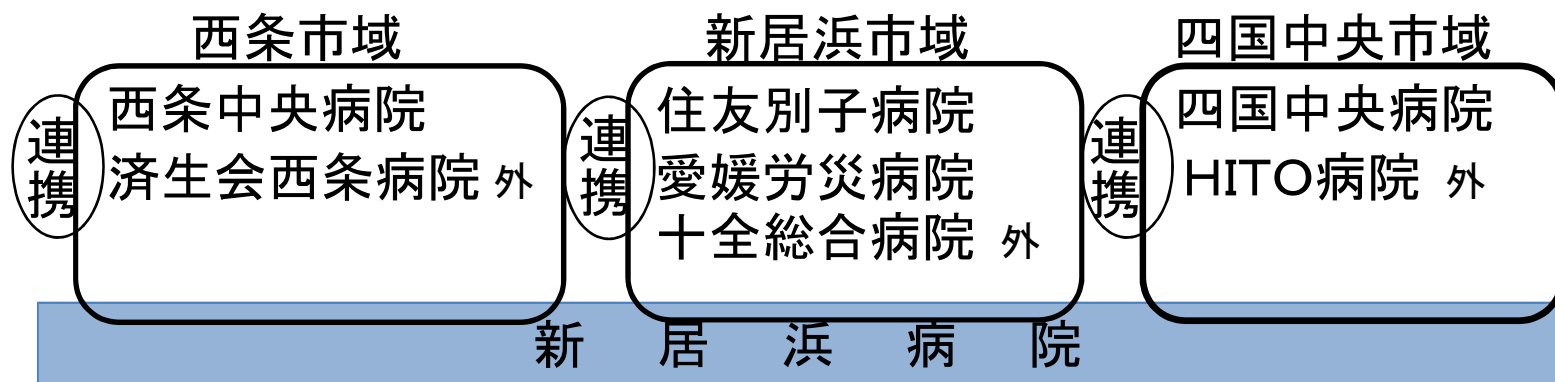
自治体病院として、愛媛大学や県立中央病院と連携し、若手医師に実践的な研修を提供できる研修・教育病院としての機能を確保する。

(5) 患者や職員に優しい病院づくりの推進

4 新居浜病院の機能・地域連携のイメージ図

【地域連携】

東予東部の地域の救急等を担う病院として、
各市の中核病院等と連携



地域医療の確保に貢献

【新居浜病院の機能】

総合診療機能の充実+高度急性期・急性期に特化

